

いに整理された住み心地のよいまちが生まれる。

【最新テクノロジーで設計されたつくばエクスプレス】



線路総延長	58.3km
所要時間	45分（快速利用）
最高速度	130km
輸送需要	28万4千人／1日（開業時予想）
車両編成	6両（開業時）
運行本数	16本／1h（朝ラッシュ時）
運転方法	自動列車運転装置によるワンマン運転方式、発車操作の他、 駅停車まで自動運転

(3) TX開通にともなう守谷市の変貌と美しい街づくり

TXの開業は、守谷市に多大な可能性をもたらすと期待されている。東京都心部と35分で行きわたるだけでなく、時間情報距離が短縮され、守谷市は、現在の三鷹や川崎・横浜などに匹敵する戦略的な立地となる。これを千載一遇のチャンスと捉え、この機会を最大限に活かし「美しい街づくり」をするためには、民間活力の発揮、行政と市民の協働の街づくりが大切と考えられ、これに必要な施策が進められている。

公共投資として、守谷駅周辺一体型土地区画整理事業や親水公園整備事業などの多くの事業が進められている。これらは、新しい交通・情報の結節点となるTX守谷駅周辺の総合開発に加えて、行政と民間による、守谷の新しい顔となる駅周辺や主要地区に魅力のある商業地区や住宅地区を創造しようとするものである。

TX開通後は、地域イメージの良いTX沿線の中核拠点として、守谷の美しい街並みや公共下水道普及率100%の住環境、楽しくて活気ある賑わいの場が、極めて新鮮で魅力的なものとして注目されることが見込まれる。

(4) 守谷市の成長力

「週刊東洋経済」では、毎年10月臨時増刊『地域経済総覧』で人口や産業、消費、財政などのデータを使い全国の都市を対象に成長力のランキングを算出している。都市の成長力は、最新のデータを5年前と比較、その増減率から都市の成長性を指数化したもの。

守谷市は、2004年版（03.10発行）では2位以下を大きく離して全国ランキング第1位となり、これで2年連続1位で今回は産業指数、消費指数ともに1位の完全首位となった。

さらに、「東洋経済新報社」が毎年発行する『都市データパック』では、「住みよさランキング」を発表している。これは、安心度（医療・福祉等）、利便度（買物環境等）、快適度（社会基盤整備等）、富裕度（所得・財政力）、住宅水準（面積・持ち家比率）の5つの視点から「都市の住みよさ」を指数化したもの。

守谷市は、2004版（04.5発行）では、全国696都市のうち「住みよさランキング」総合11位（03年度127位）となっており、今後TXの開業、大型店舗や都会型事業の進出などで順位が更に繰り上がると期待される。

【ランキングで見る守谷市】

●地域経済総覧 2004 年版（週間東洋経済 臨時増刊：2003/10/8 発行）

〔 成長力総合： 1 位 ・消費 1 位 ・産業 1 位 〕
 〔 民力度総合： 54 位 ・消費 7 位 ・産業 245 位 〕

【成長力】		採用指標	
総合	順位	1 位	・人口（住民基本台帳） ・事業所数 ・製造品出荷額等 ・新設住宅着工床面積 ・課税対象所得額 ・世帯数（住民基本台帳） ・従業者数 ・卸売業年間販売額 ・乗用車＋軽乗用車保有台数 ・地方税収入額
	指数	122.4	
消費	順位	1 位	
	指数	116.7	
産業	順位	1 位	
	指数	134.6	

【民力度】		採用指標	
総合	順位	54 位	・事業所数（人口当たり） ・製造品出荷額等（人口当たり） ・卸売業年間販売額（人口当たり） ・小売業年間販売額（世帯当たり） ・新設住宅着工戸数（世帯当たり） ・課税対象所得額（世帯当たり） ・地方税収入額（人口当たり）
	指数	122.3	
消費	順位	7 位	
	指数	134.5	
産業	順位	245 位	
	指数	95.3	

※「成長力」とは、最新のデータを、原則として5年前のデータと比較し、その増減率をもとに都市の“勢い”を指数化したもの。一方の「民力度」とは、人口・世帯など単位当たりのデータをもとに、都市の“厚み”を指数化したもの。それぞれ、全ての指標の平均である「総合指数」と、消費・産業に関連する指標のみで平均した「消費指数」「産業指数」を算出している。

※【成長力の1位は、昨年同様 守谷市】

「昨年は、産業指数が1位、消費指数が3位であったが、今年はともに1位の“完全首位”となった。守谷は、常磐自動車道の谷和原インターに近く、都市整備公園のニュータウンもある、02年2月に市制施行したばかりの新しい市。小売販売額や乗用車保有台数の増加率がともに全国2位で、事業所数、従業者数、製造品出荷額、卸売販売額もいずれも10位以内に入るなど、90年代後半から著しい成長を遂げた。さらに05年には、つくばエクスプレスも開通予定で、今後の成長余地も大きい。」と評価されている。

〔都市成長力ランキング 1～30位〕

順位	都市名	指数	順位	都市名	指数	順位	都市名	指数
1	守谷（茨城）	122.4	11	呉志川（沖縄）	112.2	21	南アルプス（山梨）	109.0
2	吉川（埼玉）	113.8	12	国分（鹿児島）	112.1	22	那覇（沖縄）	108.8
3	浦安（千葉）	113.6	13	裾野（静岡）	112.0	23	つくば（茨城）	108.5
4	袋井（静岡）	113.6	14	垂水（鹿児島）	110.9	24	小郡（福岡）	108.2
5	和光（埼玉）	113.2	15	阿南（徳島）	110.0	25	糸満（沖縄）	108.2
6	京田辺（京都）	113.2	16	八幡（京都）	109.8	26	北広島（北海道）	108.1
7	香芝（奈良）	113.2	17	磐田（静岡）	109.7	27	日高（埼玉）	107.8
8	豊見城（沖縄）	113.1	18	浜北（静岡）	109.3	28	東根（山形）	107.5
9	杵築（大分）	112.4	19	栗東（滋賀）	109.3	29	尾花沢（山形）	107.5
10	掛川（静岡）	112.3	20	前原（福岡）	109.3	30	坂戸（埼玉）	107.4

※ 最も成長力のある都市は守谷市！ 成長力指数は、122.4（全国平均を100とした指数）

(5) 守谷市駅周辺地区の街デザイン・コンセプト

① 利用者視点での街づくり

駅前街区を利用する人々にとって、快適で利便性の高い拠点となるように、パブリックスペースの提供、導入する機能・施設・システム等を通じて公共公益性について特段の配慮を行うものとする。

② 新しい都市景観の形成

駅前の拠点にふさわしい街並み景観の調和、オープンスペース等の空間の連続性に配慮する。また、守谷市民が誇りとする都市拠点となるように、市民のニーズを十分配慮し、誰にでも住みやすく、親しみやすい市民の駅前街区を創出する

③ 協働で進める街づくり

基盤整備や公共公益施設を担当する行政、施設建築物を受け持つ民間、それらを利用する市民と来訪者などが協働したまちづくりを行うとともに、街区ごとの共同化の推進など、駅前開発に参画する関係者全員のパートナーシップやコラボレーションを大切にしたい街づくりをめざす

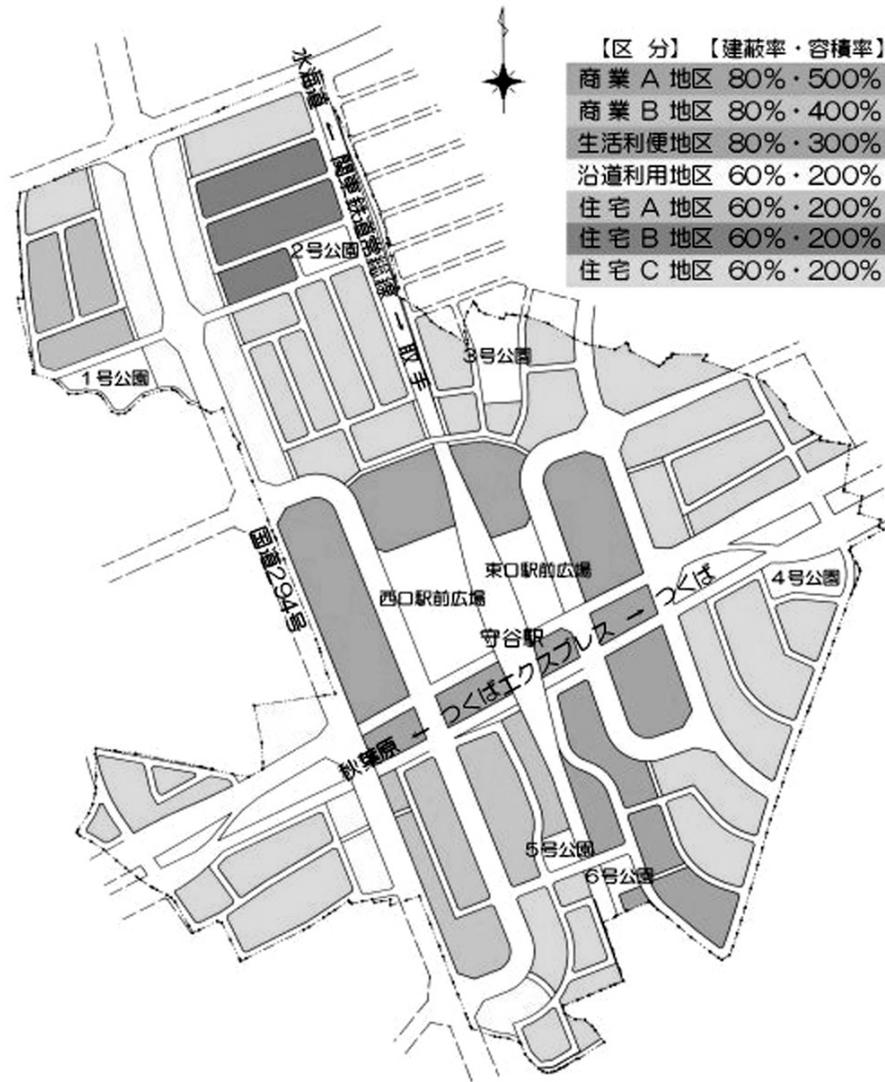
(6) 文化・交流ゾーンとして期待される駅前街区

駅前施設の整備は、財政状況を見極めながら中・長期的な視点に立った取り組みとともに、民間活力の導入を図ることが重要である。その間、暫定的な利用を含むことになるが、駅前は、広場としての利用価値は高く、広場空間や緑地空間など、ゆとりが感じられる環境空間の創出は、街の魅力を高めることにつながるものである。特に、計画的な宅地開発により優良な住環境が整った守谷においては、こうした市民ニーズは高い。

駅前広場は、魅力的な街には欠かすことができない存在であり、ただ人が通り過ぎるパブリックなスペースではなく、人々が行き交い、立ち止まり、出会い、集う場所、市民のたまり場でもある。

〔広場としての活用方法〕

・祭り・大道芸・コンサート・ビアガーデン・オープンカフェ・産直朝市・観光物産展・アートマーケット・チャレンジショップ・アーカスアートスペース・趣味の殿堂・企業PR・情報発信拠点・レンタサイクルなど



【駅前都市デザインイラスト】 守谷市ホームページより

2、街全体「フードテーマパーク」化と「自転車による街づくり」提言

(1) 三つの川に囲まれた『公園都市・守谷』

守谷市は、西の鬼怒川、北の小貝川、南の利根川の三つの川に囲まれた、水と緑と豊かな自然環境と空間の広がりのある街である。中央部分は、平均標高20mの台地で、『常陸風土記』などで「古来土壌肥沃で原野肥え」といわれている畑作に適した土地である。同時に、水害の心配の要らない高燥の地に住居を構えられる利点を持つ。

住宅地周辺に計画的に配置された都市公園の絶対数は県下6位で、この他にも、市街地にはポケットパークや緑地が数多く配置されている。人口10万人あたりに換算した都市公園数では県下1位で、いわゆる「パークシティ」と呼ばれるゆえんである。

街づくりの主要骨格は、公団・大手民間事業団の手で計画的に質の高い住宅地域に仕立てられている。街路樹を配した街並み、高層ビルを制限した住居空間、広い舗道、公共下水道普及率100%などは、緑地公園の多さと相まって「公園都市・守谷」を形成している。

(2) 『フードシティ守谷』街ブランドづくりと『守谷シティガイド』発刊

守谷は、豊かな自然と高質な住居空間が評価され、都心部から移住してきた新住民が多い。それゆえ、それらの新住民を対象とした『おしゃれで、美味しい』レストラン、飲食店が数多く進出し、フードシティの様相を呈している。守谷市を南・北に貫く「ふれあい道路」は『グルメ街道』の別称すらある。そのほか、街の周辺部には、自然景観や緑の空間を重視した「隠れレストラン」が点在し、こだわり派、女性グループを惹きつけている。

守谷の、このこだわりグルメ店の多さを軸にしながら、地域食材の活用を積極的に進めて、街のキャラクターをより鮮明に打ち出し「ブランド化」しようとするのが、街全体「フードテーマパーク」の考え方である。都心客の誘致には、街ブランドづくりは必須条件である。

そのためには、お店は「創る」立場から、市民は「食べる」立場から、「フードテーマパーク」づくりの目標と志を示した指針、すなわち『街コンセプトブック兼グルメガイド』が必要となる。

『自由が丘・オフィシャルガイドブック』や『湘南スタイル』は、お店を紹介しながら「街のブランドづくり」を意図した先行事例である。

最近、TX開通にちなんで出版された『つくばスタイル』は、つくばのライフスタイルを表現しながら、併せて街のブランド化を目指すメディアとして高く評価されている。街であれ、商品であれ、「目標ゴールイメージ」明確化は、「上質なブランドづくり」には欠かせないもの

なのである。

(3) 自転車による『守谷・散歩ツーリング』の仕組みづくり

守谷市は、東・西とも直径7km強の、真四角に近い街なので歩くこともできる。しかし、道路が良く整備され、周辺の川にはツーリングロードが急ピッチで整備されているので、豊かな自然環境を楽しむためには自転車が最適である。

TXは最新鋭鉄道の考え方から「サイクルトレイン」の導入を検討しているといわれ、もし実現すれば、都心より多くの自転車ツーリストが守谷・つくばを含む広域の自然水郷ツーリングに訪れることが期待されている。

茨城県主宰の異業種交流「元気商い研究交流会・守谷」では、守谷市のこれらの地域資源と都市インフラに着目し、「自転車による食べ歩き」を街づくりのテーマに選んだ。前述のように、守谷の街全体を『フードのテーマパーク』として位置づけ、自転車をそのためのメディアとして利用して都心部から観光誘致しようとするもの。

すでに、昨秋、「官・民合同チーム」による走行会を実施し、自転車を利用しての守谷の街再発見に手ごたえを掴んでいる。

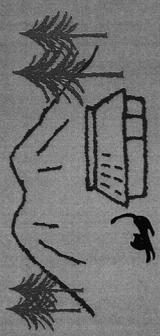
この自転車による街づくりを更に進めて、05年春「京都議定書発効」を見据えて、自転車を街の主要交通手段として積極的に打ち出し、未来型都市『環境にやさしい、美しい街・守谷』をめざそうというのが「自転車特区構想」である。研究段階であるが、幹線道路以外は「生活道路」と位置づけ、自動車の走行速度を大幅に制限して、自転車・歩行者を優先するという、チャレンジングなプランである。「自転車特区」への本格的な取り組みが実現すれば、生活都市としては守谷市が全国ではじめてとなる。

【『自由が丘オフィシャルガイドブック』と『つくばスタイル』】



知的な田園都市の生活マガジン
 つくばスタイル
 Life Style Magazine for Tsukuba Garden City

「ほどよく都会」
 都心から45分の粋な田園生活
 「豊かな自然」



特集1 ◎つくば在住8家族のライフスタイル
 里山のモダン&スローな暮らし

特集2 ◎心地よき食卓と隠れ家のバー
 グルメタウンの人気店5選

国井雄子のほじめしてつくばへ里山カフェ
 つくばサテライトガイドおもしろつくばはほじめよう
 つくば子育てナビつくばは子育てで街が暮らす

